

行政視察研修報告

文教福祉常任委員会

前委員長 柴原 忍

当委員会は去る1月22日、23日の両日、広島県の呉市教育委員会および尾道市立土堂小学校へ視察研修を行いました。

今年、昨年7月に実施した京都市内の小学校における「小中一貫教育」の現状把握に続く第2弾の研修であります。

初日に訪ねたのは呉市教育委員会。ここの研修テーマは「小中一貫教育を中心とした教育改革の取り組みについて」であります。事務局には、教育改革推進室なる部署を設置し同市の小中一貫教育や学校統合、あるいは通学区域等々に関する調査研究に取り組みされている現状を懇切丁寧に教わりました。一方、2日目に訪ねた土堂小学校ですが、

な授業風景でありました。2日間を通して、各委員からこれら導入に至る経過あるいは苦労話等々、疑問点を積極的に質問するとともに、「今後の高島市の教育は如何にあるべきか」を真剣に調査した広島市の研修でありました。



土堂小学校



土堂小学校参観風景

1月23日・24日に石川県能美市と中能登町において、行政視察研修を行いました。いずれも町村合併をされて間もなく、新しい行政を運営されて1年あるいは2年を経過した市と町であり、いずれも行政運営を分庁体制で行われていました。

産業建設特別委員会

前委員長 林 弘

【能美市】

「公共交通運行方針」として、石川県県庁所在地である金沢市および人口県下2番目の小松市に就労者が流れる谷間に位置して、JR北陸線と民間の路線バスを組み込んだ「市内連携バス」と合併前3町の主に公共施設を周る「循環バス」をうまく体系づけ



能美市での視察風景

ていることは本市のコミュニティバスとちがうと乗車体験して気づきました。

【中能登町】

品目横断的経営安定対策に対応した農業組織の育成について、農家戸数70戸、水田面積43ha、認定農業者1戸、協業組織1組織の「春木生産組合」北村組合長と「やまびこ農場」北原代表の農業従事者を交えて、情報を得ました。

農地の基盤整備を行うことがきっかけとなり、行政やJAに頼ることなく「自立経営をめざしてピンチをチャンスにする」「春木生産組合」と「やまびこ農場」の本音がうかがえました。



中能登町での視察風景

心とした農地も雑草が生い茂り、荒廃していました。

農業経営改善に地権者や耕作者が取り組まなければ、地域内の農地はもとより国土が、荒れてやがては高齢者ばかりが残り、行政運営そのものが困難になるように感じました。

そんな中、一人でも多くの者が農業に魅力を感じ、周辺の協力者を得て新しい農業経営に地道にとりくむ姿が見えました。1年後2年後という短い期間で

は結果は出なくとも、10年後20年後の春には大型トラクターの音が響き、土埃が舞い、秋には黄金色の稲穂がたわわに実り、コンバインで刈り取っている風景を思い描くと中能登町の町制要覧にうたう「悠久ロマンの世界へ」誘う魅力的な田舎のまちなり、しっかり次世代に受け継がれる農業が確立されていることは、高島市においても地域で支える農業経営を考えるうえで参考になりました。

病院対策特別委員会

前委員長 大西 勝巳

一月末日、高島病院と同規模の富山県射水市民病院、南砺市民病院および南砺市議会において行政視察研修を行いました。国の医療制度の見直しや、少子高齢化の進展とあいまって、全国の自治体病院の約6割余が赤字経営に陥っている実態でありますが、射水市民病院および南砺市民病院も例外ではないことを確認しました。しかし、視察した二つの公立病院と当市が異なる点は、総合病院として着実に地域社会に密着した運営方針で管理運営されていることであると感じました。

その中で、1、病院スタッフが当病院に勤務していることに誇りと喜びを帯びて、地域の人が何でも

換でも、同様の公立病院を抱える市議会が、議会議員の果たす役割が大きな責任を持ってチエックされているというのを感じました。なお、経営改善に待ったなしの状況に追い込まれている高島病院は、5万6千人の市民に対してどの様な病院をめざすかを明確にする必要があることを痛感しました。



射水市民病院



南砺市民病院